

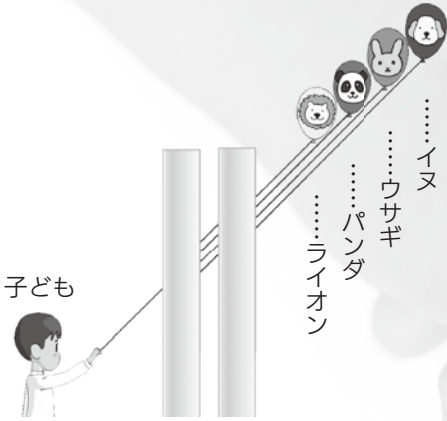
人権意識を高めませんか

問 教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎ 0943-32-0093

偏見や差別に気づく

左の絵をご覧ください。子どもはどの動物の風船を持っていると思いますか？「ウサギ」だと思った人が多いのではないのでしょうか。次に定規をあててみてください。答えは「ライオン」だとわかります。

さまざまな場面に出会ったとき、私たちは障害（壁）があることで、正しいことがわからない場合があります。人権問題も同じです。心の中に「予断や偏見」「誤った知識」があると間違った判断をし、周りの人に嫌な思いをさせることがあります。そうならなためには、「人権意識を高めること」が必要です。



人権意識を高めるとは「偏見や差別に気づく感覚を高めること」をいいます。

誰かが間違った発言をしたときに、それに気づき「それはおかしくないですか？」と問いかけることです。もう一つは「人権に関する知識を身につけること」です。知識には「差別の現実や実態」「差別を受けている当事者の思いや願い」「人権に関する歴史や経過」「法や制度」などがあります。知識を深めることで「偏見や差別を防ぐことが可能です。この二つをバランスよくもっていないと、あなたの周りで起こっている「偏見や差別」に気づかず、助長してしまふこととなります。では、どうしたら人権意識を高めることができるのでしょうか。人権意識を高めるには、研修会や講演会などに参加するなど、さまざまな経験をすることが必要です。テレビ番組を見るときにさまざまな知識を得たり、出演者の必要な発言に気づいたりするなど、日ごろの生活の中で人権に関するアンテナを張っておくことも、人権意識を高めることができます。

合理的配慮で笑顔あふれる町に

写真①は「ビール」「ノンアルコールビール」どちらだと思えますか？「そんなこと言われてもわかるはずがない」と答える人がほとんどです。答えは「ノンアルコールビール」。ビールは写真②のようになっています。



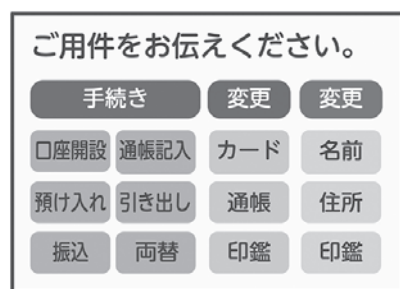
① アルコールが含まれているものには、視覚障がい者でもわかるように、点字で「おさけ」と書かれています。こういった配慮を「合理的配慮」といいます。ビールの点字は1996年（平成8年）4月から始まりました。

2016年（平成28年）4月には、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。この法律では「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。そのことによって、障がいがある人もない人も共に暮らせる社会を目指しています。

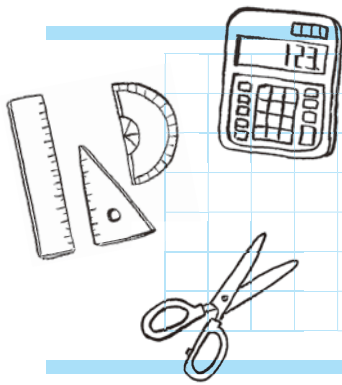
合理的配慮の提供の一例

- ・車いすを利用している人が通行しやすいよう、スロープを設ける
- ・視覚障がい者のために点字ブロックを設ける
- ・ノンステップバス（段差なく乗り降りできる車両）を運行する
- ・会話が難しい人や読み書きが難しい人と会話するときには、コミュニケーションボードを使う

金融機関で使われているコミュニケーションボード

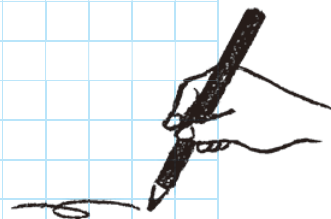


日ごろの生活の中で「人権」に関することはたくさんあります。人権は「難しいこと」「自分には関係ないこと」ではありません。人権意識を高め、誰もがつらい思いをしないう、笑顔あふれる町をつくりましょう。



学校教育

◎教育委員会事務局学校教育係 ☎0943-32-0093



広川中学校マスコットキャラクター

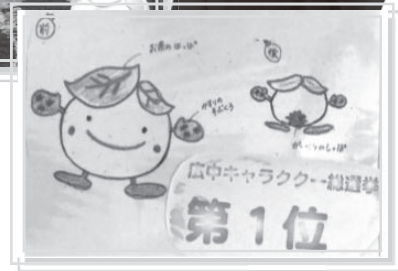
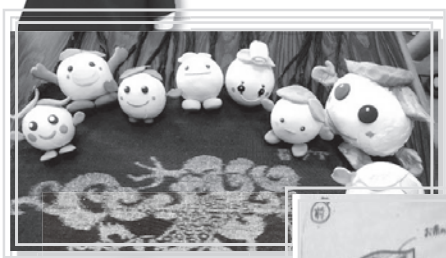
ひろっぱちゃん 誕生!



◀野田彩心さん



▶本田柚稀さん



今年1月、広川中学校のマスコットキャラクター「ひろっぱちゃん」が誕生しました。ひろっぱちゃんは、昨年の休業期間中に全校生徒へ出された美術科の課題、「広川中学校のオリジナルキャラクターをつくろう!」で誕生したものです。生徒は広川町の魅力や産業などを考えながら、課題に取り組みました。

トキャラクターにふさわしいと思うものに生徒が投票する「広中キャラクター総選挙」が行われました。選挙の結果1位に選ばれたのは、当時1年生だった本田柚稀さんが考えた作品です。キャラクターの名前は、昨年2学期末に生徒会が募集し、「ひろっぱちゃん」に決定しました。

ちゃんを使えるようになりました。現在は、学校が各家庭へ配布する「学校通信」や「生徒会だより」などに使われています。

美術部が紙粘土で作ったひろっぱちゃん人形は、広川中学校の玄関などに飾られており、「広中へようこそ」「ここで消毒を」といったメッセージを発信しています。生徒会役員は「これからは、ひろっぱちゃんと共に広中生の良さを地域に発信していきたいです」と話していました。

出来上がった作品の中から、美術科の教師が選んだ30点が廊下に提示され、その中で最も広川中学校のマスコッ

その後、広川中学校の卒業生で筑陽高校デザイン科に進学した野田彩心さん（現在高校2年生）にウェブデザインを依頼し、日常的にひろっぱ



広川中学校
古川 志乃 校長

広川中学校の重点目標は、「気づき、考え、実行する生徒の育成」です。本校のマスコットキャラクターの作成はまさに、郷土広川の良さや産業について「気づき」、マスコットキャラクターのデザインを「考え」、広川中学校生徒として新型コロナウイルスに負けず、前向きにがんばる（「実行する」）取り組みになったのではないのでしょうか。今はコロナ禍で大変なことばかりですが、ひろっぱちゃんがみんなを元気に、明るい気持ちにさせてくれているように思います。